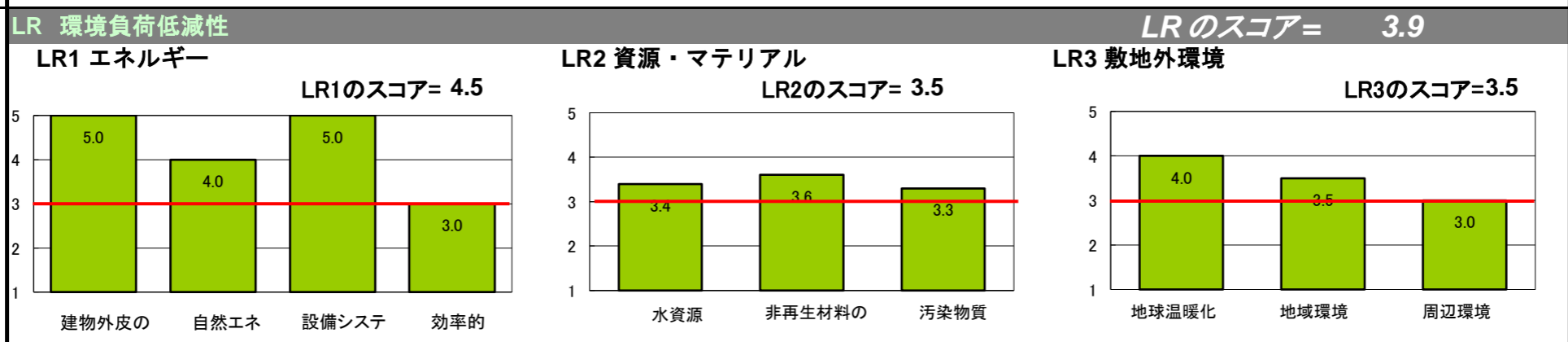
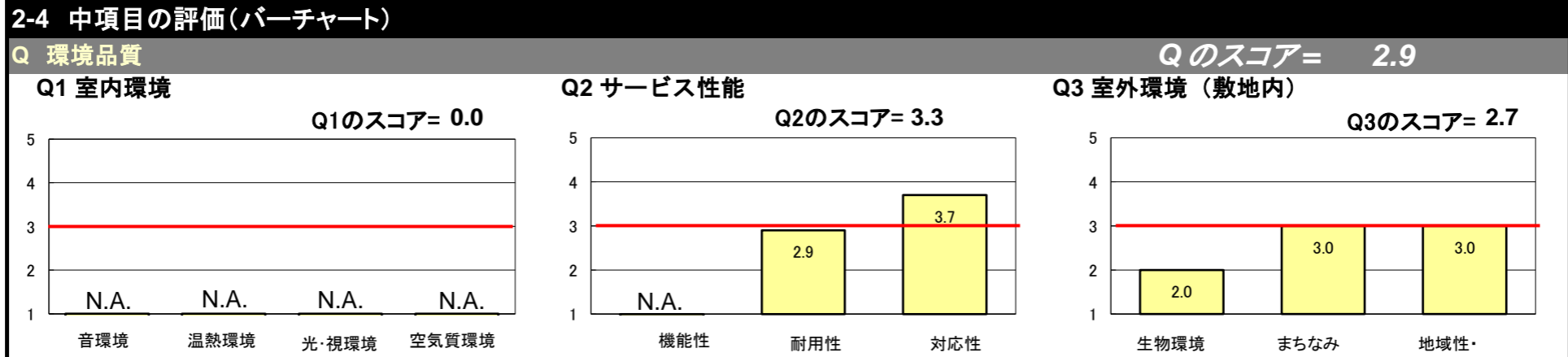
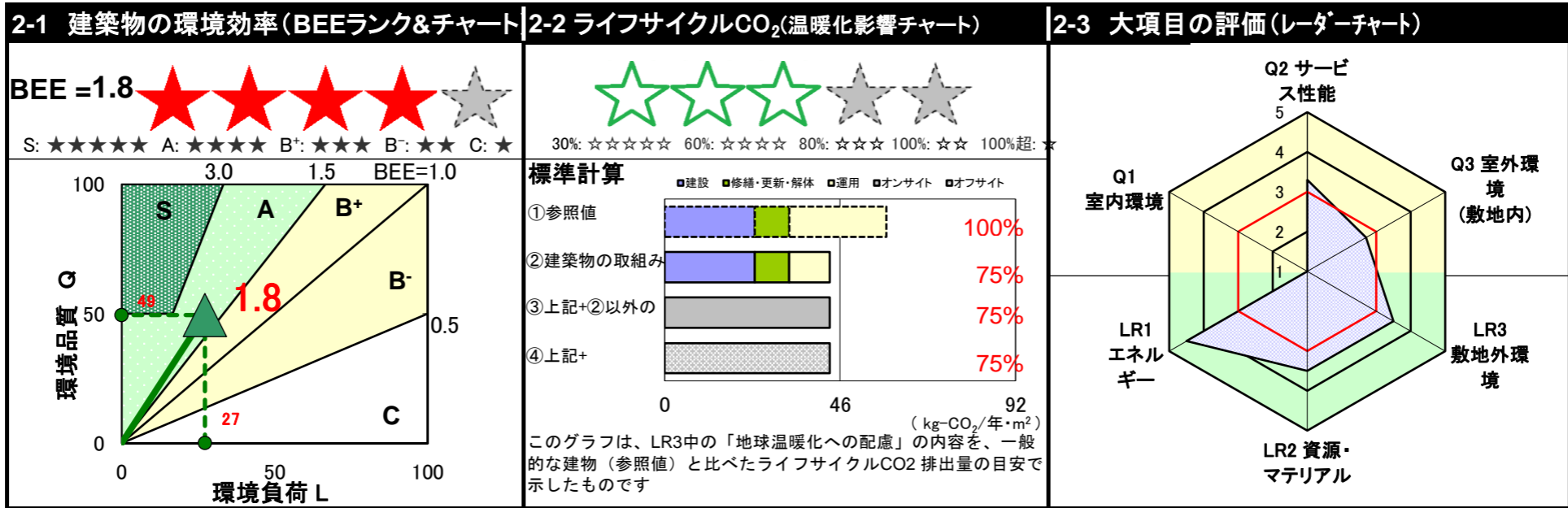
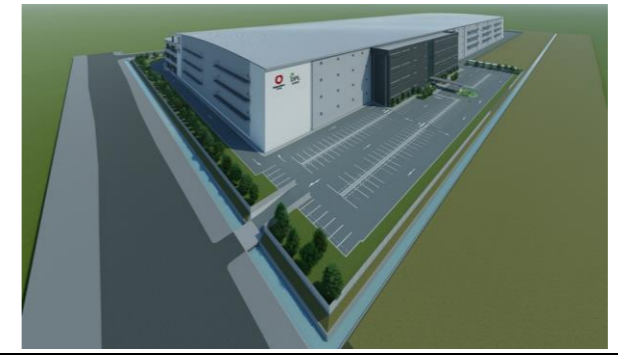


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	DPL名港弥富	階数	地下0階地上4階
建設地	愛知県弥富市駒野町1番1号	構造	SRC造
用途地域	工業地域、法22条地域	平均居住人員	400人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,080時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2022年5月 予定	評価の実施日	2020年9月25日
敷地面積	91,710 m ²	作成者	早矢仕 英治
建築面積	53,533 m ²	確認日	2020年9月30日
延床面積	209,595 m ²	確認者	早矢仕 英治



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>4.0</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>22.9 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.3</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							全体
配慮項目	独自基準 重点項目	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
					評価点	評価点	評価点	評価点			
Q 建築物の環境品質										2.9	
Q1 室内環境										-	
1 音環境										-	
1.1 室内騒音レベル					3.0	-	-	-	-	-	
1.2 遮音					-	-	-	-	-	-	
1 開口部遮音性能					-	-	-	-	-	-	
2 界壁遮音性能					-	-	-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	-	-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	-	-	-	-	-	
1.3 吸音					-	-	-	-	-	-	
2 温熱環境										-	
2.1 室温制御					-	-	-	-	-	-	
1 室温					3.0	-	-	-	-	-	
2 外皮性能					3.0	-	-	-	-	-	
3 ゾーン別制御性					3.0	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御					3.0	-	-	-	-	-	
2.3 空調方式					3.0	-	-	-	-	-	
3 光・視環境										-	
3.1 昼光利用					-	-	-	-	-	-	
1 昼光率					3.0	-	-	-	-	-	
2 方位別開口					-	-	-	-	-	-	
3 昼光利用設備					3.0	-	-	-	-	-	
3.2 グレア対策					-	-	-	-	-	-	
1 昼光制御					5.0	-	-	-	-	-	
3.3 照度					3.0	-	-	-	-	-	
3.4 照明制御					3.0	-	-	-	-	-	
4 空気質環境										-	
4.1 発生源対策					-	-	-	-	-	-	
1 化学汚染物質					3.0	-	-	-	-	-	
4.2 換気					-	-	-	-	-	-	
1 換気量					3.0	-	-	-	-	-	
2 自然換気性能					3.0	-	-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮					3.0	-	-	-	-	-	
4.3 運用管理					-	-	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視					3.0	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御					3.0	-	-	-	-	-	
Q2 サービス性能										3.3	
1 機能性										-	
1.1 機能性・使いやすさ					-	-	-	-	-	-	
1 広さ・収納性					3.0	-	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応					3.0	-	-	-	-	-	
3 バリアフリー計画	独自				3.0	-	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性					-	-	-	-	-	-	
1 広さ感・景観(天井高)					3.0	-	-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース					3.0	-	-	-	-	-	
3 内装計画					3.0	-	-	-	-	-	
1.3 維持管理					-	-	-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計					3.0	-	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保					-	-	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性										2.9	
2.1 耐震・免震・制震・制振					0.5	2.9	0.52	-	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					0.4	3.0	0.48	-	-	-	
2 免震・制震・制振性能					3.0	3.0	0.80	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					0.3	2.9	0.33	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数					-	3.0	0.23	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②				-	3.0	0.23	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					-	1.0	0.09	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					-	4.0	0.08	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					-	5.0	0.15	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔					-	2.0	0.23	-	-	-	
2.4 信頼性					0.1	3.0	0.19	-	-	-	
1 空調・換気設備					3.0	3.0	0.20	-	-	-	
2 給排水・衛生設備					3.0	3.0	0.20	-	-	-	
3 電気設備					3.0	3.0	0.20	-	-	-	
4 機械・配管支持方法	②				3.0	4.0	0.20	-	-	-	
5 通信・情報設備					3.0	2.0	0.20	-	-	-	

屋外: ガルバリウム鋼板を採用
硬質ポリ塩化ビニル管VPを採用

耐震クラスA基準

3 対応性・更新性				0.4	3.7	0.48	-	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり				0.3	3.4	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		6.700m	-	5.0	0.60	-	-	-	
2	空間の形状・自由さ			3.0	1.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり			倉庫床:14700N/㎡	3.0	5.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.57	-	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.0	0.30	-	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		-	3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	-	3.9
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	4.5
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.65	3.0	5.0	0.20	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			ナイトページ機能あり	3.0	4.0	0.10	-	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.42	3.0	5.0	0.50	-	-	-	5.0
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	3.5
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			eco5便器を採用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.6	0.63	-	-	-	3.6
2.1 材料使用量の削減				-	3.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②		-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	タイル・ストーンエッジ II ビニル床・抗菌フロア・マarmor 再生砕石路盤 採用	3.0	5.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	3.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	OAフロア採用	3.0	4.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.3	0.22	-	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			無毒 シリケートハードナーを使用	3.0	4.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			-	3.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率75%	-	4.0	0.33	-	-	-	4.0
2 地域環境への配慮				0.3	3.5	0.33	-	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止			燃焼機器使用なし	-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	駐車場に関する取組ができています	-	4.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	2.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自		-	-	-	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制			-	1.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.0	0.10	
② 資源の有効活用				3.3
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.6	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化: 22.9%/建物緑化: 0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	建築物内部の環境を高めるだけでなく、周辺環境に対する影響を抑えるよう計画している。
Q1 室内環境	室内は適切な照度となるようにしている。
Q2 サービス性能	内装、設備の更新回数を少なくなるよう配慮する。 設備の更新制やすさに配慮する。 空間、荷重にゆとりを持たせている。 コンセプトを立て、それに基づいた内装、外構提案を行う。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地に適切な空地、緑地を設け、従業員がくつろげるスペースとしている。
LR1 エネルギー	エネルギー消費量に配慮する。
LR2 資源・マテリアル	資源の無駄を減らすことに配慮している。 環境に配慮した材料を使用している。
LR3 敷地外環境	適切な駐車場台数を確保している。
その他	特に無し。